

八中3年人権だより

徳島市 八万中学校
3年生 第9号
2024年 7月10日
編集・文責 吉成正士

(8号からのつづき)

あのとき一步を踏み出したから

■私は今回の人権集会で、心に残った言葉がたくさんある。まず、安田さんの発表では、「八中方式」になり、初めてみんなの前で発表したときのことを思い出した。発表なんか絶対しないと思っていたから、発表後もしばらく震えが止まらなかったように思う。でも、あのとき一步を踏み出したから、人権に対する意識が変わったことに、自分でも気づくことができた。次に田中さんと三谷さんの発表では、リフレーミングの大切さがわかった。私は自分に対してネガティブな考え方をよくしてしまい、コンプレックスがたくさんある。でも、私自身が思う“短所”が、他の人が見たとき“長所”になっているのかもしれないと思うと、これが私だから自信をもとうと思った。大屋さんの発表では、中2のときの自分と共通しているところがあり、共感できた。初めは毎日不安しかなくて、今の友達に「暗い子なのかと思った」と言われるぐらい下を向いていた。「笑顔は人を幸せにする」とあったけど、自分が笑顔で話しかけると、友達が増えていったように感じる。私も笑顔で幸せになれたんだと思う。最後に川上さんと出葉さんの発表では、出葉さんの「普通」をなくすというのが、多様性のある社会になるための根本的なところで、一番難しいものだと感じた。そして私が一番心に残ったのは、川上さんの「性別はグラデーション」という言葉だ。この言葉はとても的確で、自分の考えを代弁してくれたかのようにしっくりきた。「学び続けることを学ぶ」のように、今日学んだこと、自分と向き合えたことを、また次や、これからに生かしていきたいと思う。

6組MH

「絶対発表しない」と思っていた自分が変わる。そんな場面に何度も出くわしてきました。思う以上に皆さんは柔軟で、可能性に溢れているのだと思います。無理なく自然に変わったのは、仲間の存在も大きいでしょう。1+1=2ですが、人間に当てはめると、2は3や4や、もしかすると10や100にもなるのかもしれない。そんな自分を信じて次の一步を踏み出してみると、人間の持つ可能性とは、本当に無限大なのかもしれません。

ネガティブな環境のなかで育ってしまうと、人はどうしてもネガティブな思考や発言に陥りやすいものです。そしてそれはまた、新たなネガティブな環境をつくりだ



してしまい、負の連鎖から逃れられなくなってしまう。小さい子どものうちは特にそうかもしれません。でも、皆さんくらいの年頃になってくると、そんな自分の人生を、「自分の意思」次第で変えることができます。「笑う門には福来る」とか、「人生笑ったもん勝ち」とか言われることがあります。ポジティブでいると、嫌なことは勝手に逃げていき、良いことが向こうからやってくるわけです。つまり、負の連鎖から正の連鎖に変えていけるわけです。人生一度きり。同じ生きるなら、ネガティブに生きるのではなく、ポジティブな人生にしたいものです。

話して、聞いて、つながって、大きくなる

■私は今日の人権作文意見発表会に参加して、みんなは前回よりも聞く姿勢、話す姿勢が両方ともすごく良くなっていると感じました。1回1回重ねるごとにどんどん良くなっているのは凄いことだとあらためて気づきました。今回6人のお話を聞いて、それぞれにすごく心に残った言葉があって、本当に感謝です。安田さんの、自分たちでより良くするために考えて行動に移すのは本当にすごいし、私もしなきゃと思われました。これは人権学習だけでなく、他のいろいろなことにつながれると感じました。川上さんの発表では、確かに男と女で区別は必要だけど、それが行き過ぎると“差別”になるので、必要最低限が良いと考えました。そして三谷さんの発表では、私は嫌なことがあると逃げてしまうけど、「見方」を変えるというのが大切だと言っていて、すごく共感しました。長所、短所を見方を変えて認めるということが続けていきたいです。私は今回6人の発表を聞いて、自分のことで話づらいこともあったかもしれないけど、勇気をもって私たちに話してくれて、すごく嬉しかったです。また意見を誰かが話して、その意見を聞いてまた誰かが話して、また…って、どんどんつないでいってる感じがして、すごく素敵だと思いました。それが学年全体、八中全体で…って大きくなっていったらいいなと思いました。1組ON

実は今回の集会は、今までと少しだけ違ったことに気づいていましたか？ 全体学習は異なるクラスの6人グループに分かれてやってきましたが、人権作文意見発表会は、クラスごとに整列して聴いていました。6人グループに分かれると、どうしても整列にはなりませんから、みんなちゃんと聴けるのか…と不安もなくはなかったのですが、皆さんちゃんと聴けていましたね。もう皆さんのなかでは、「話は眼で聴く」ということが、習慣化されているのだと思います。これは簡単なことのように意外と難しいのですが、習慣化してしまえばできるわけです。そしてこの聞く姿勢は、人間関係をつくるうえで大切な行為なのです。

さて、皆さんのなかには、将来、学校の先生をめざす人も出てくると思います。そのときに、皆さんが体験したような人権学習をしてみてください。たくさんいろいろな学校で、当たり前。それがここに書いてくれている、「大きくなって」いくということです。別に学校じゃなくても構いません。それぞれの職場で、それぞれの思

いが出し合える職場をめざしてみてください。それが、「大きくなって」いくということです。そしていつか皆さんに子どもができたなら、そんな話ができる親になってほしいと思うし、そんな目線でPTA活動に参画してもらえたらと思います。それが、「大きくなって」いくということなのです。信頼関係で結ばれる学校や社会を、皆さん自身が築いていくのです。



行動できる人権学習を日常の1秒に

■人権作文意見発表会に参加して、多くのことを感じられた。6人の発表や他の人の意見を聞いて、改めて人権はこれからも学び続けていかないとけないと思いました。自分が普段当たり前に生活している環境には、自分のことを大切に思ってくれている人たちがいて、その人たちのおかげで今、自分は毎日生活できているということを改めて感じ、もっと感謝しないとけないと思いました。差別をなくしていくには、分かったつもりで学習を終わらせるのではなく、自然に行動できる人権学習を日常の1秒にしていく必要があるということが分かりました。また、僕はスポーツが大好きで、これからもずっと続けていくなかで、必ず人権についての知識は必要になってくると思うので、今日の発表会でも言っていた、学ぶことは人を幸せにするという言葉を忘れずに向上心を常に持って学び続けていこうと思いました。

3組NS

最近のトップアスリートは、本当に純粋に、向上心に溢れた人が多いですね。しかも、「自分だけ」が良ければというのではなく、それを周りにちゃんと還元しています。同じスポーツをしている後進の子どもたちだけではなく、そうでなくても、体を動かすことを通じてスポーツの素晴らしさや、仲間と一緒にやることの素晴らしさを伝える活動をしています。また、募金活動やゴミ拾い、海の清掃活動などの社会貢献活動にも積極的にかわり、そこで得られた学びを、プレーにも生かそうとしています。あらゆる場面でリスペクトすることを、スポーツを通じて広めようとしています。そのすべてが、人権活動です。これはどの競技においても、どのカテゴリーにおいても、常にそうであってほしいなと思います。

長所が増えると、これからは楽しい

■人権作文発表会をして、どのクラスの代表の人の作文もとても心に響きました。私は特に三谷さんと田中さんのコンプレックスのことについての作文が印象に残っています。私にもコンプレックスがありました。三谷さんと田中さんと同じで、私も身長がコンプレックスでした。小さい時から周りと比

べて身長が高い方でした。学級写真を撮るときに自分だけ頭が出ていて、それが嫌でわざと身長を低く見せるために、少ししゃがんだりしていました。でも周りの友達に「歩ちゃん身長が高くていいな」とか、「うらやましい」と言われて、とてもうれしかったというのを覚えています。今回作文を聞いて、私と同じことを思っている人がいると知れて、なんかとてもうれしかったです。今は身長が高くてよかったと思っています。自分にはコンプレックスと思っても、周りの人たちからは「うらやましい」と思われていると思います。三谷さんが言っていたように、短所を増やすのではなく、長所をたくさん増やしていくと、これからは楽しくなると思います。中学校最後の人権作文発表会、6クラスの人たちの作文がきけて良かったです。

4組KA

「少ししゃがむ」くらいですから、おそらくは周りに分からないように、そっとやっていたのでしょう。もしかすると、「そんなことをしてるのは自分だけ」と思っていたかもしれません。でも、こうやって発表してくれる人がいると、意外や意外。他にもたくさんいたことが、感想文から読みとれました。ということはもしかすると、今も他学年や全国には、そうした子たちがいるかもしれないということです。そんな子たちに言ってあげたいですね。「しゃがまなくなっていていいんだよ。それはあなたの素敵な長所。自信をもって。そのままいいんだよ」って。

自分に自信がある人はカッコイイ

■昨年の人権作文意見発表会よりも、すごくアップグレードしたのどと感じました。蒸し暑くて、扇風機もほとんど効かないという状況だったのにもかかわらず、ほとんどの人が集中して感想を書いて、意見を交換してと、やるべきことをしっかりできていたからです。吉成先生の、「人権か、勉強か、どちらかではなく、両方続けていくこと」という話が心に残りました。何をするときにも「×人権」の意識をを忘れずに行動していきたいと思います。今日の人権作文を読んでもらった子全員の言葉がすごく心に刺さりました。特に三谷さんの発表が印象的です。「短所を長所だらけにすればいい」や、「自分に自信がある人はカッコイイ」というこの2つの言葉がすごく心に残っています。この発表を聞くまでは、コンプレックスはコンプレックスで仕方ないと思っていたけど、自分がコンプレックスと思っているものも、他の人から見ると憧れやうらやましいものと知りました。コンプレックスを長所へ変えることができることができるのは、この世に自分だけだと思います。最終的に自分の気持ちを大切にしたり尊重したりできるのも、自分だけだからです。いいところを伸ばすのも良いと思うけど、これからは短所を長所へ思える、そんな人になりたいと思います。この3年間でしてきた人権学習だけで学習が止まることのないよう、自分で学び続ける人にもなれるように頑張りたいです。6組KM

もちろん、短所を克服しようと努力することも素晴らしいことで、尊いことです。でも、その短所と思えることを、「それが自分だから」とありのまま受け入れることも、また尊いことなのだと思います。つまり、「どちらが」というのではなく、「どちらも」尊いのだと思います。人の考え方、生き方の違いというだけです。いずれにしても、そんな自分に自信と誇りをもって、格好良く受験や面接に臨むことです。第一印象だけでは伝えられない、ありのままの自分自身を伝えることです。(10号に続く)